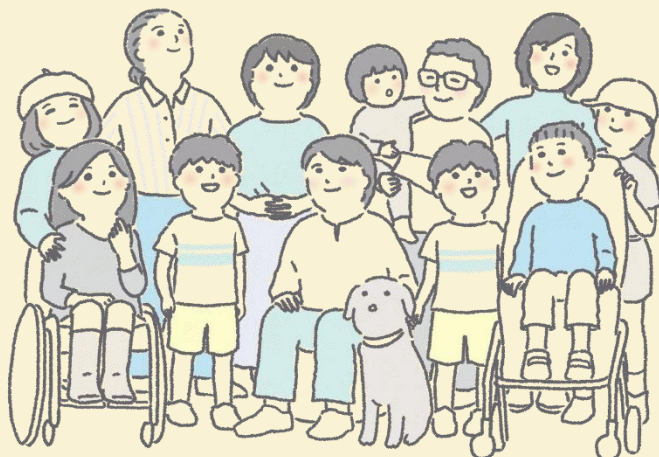


交流及び共同学習のススメⅡ

— 学校間交流を中心とした実践例集 —
各県立特別支援学校における取組



令和8年3月
群馬県教育委員会
特別支援教育課

交流及び共同学習の展開と工夫のポイント

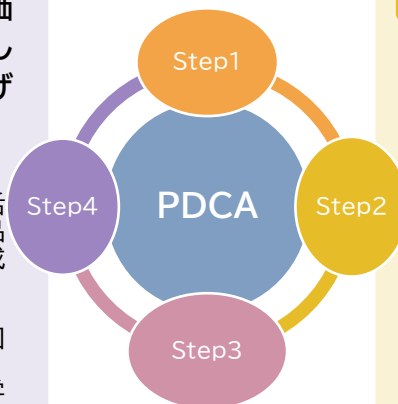
継続性・発展性のある学習とするために、「4つのステップ」で計画的に進めていきましょう。

Step1 計画・打合せ(Plan)「無理のない計画が、継続の鍵です」

- ・ 幼小中高等との調整・依頼
管理職や各校担当者間で、ねらい・日時・内容・配慮事項等について協議します。相手校への趣旨説明や正式な文書依頼もこの時期に行います。
- ・ 指導計画の作成
年間指導計画や教育課程上の位置付けを明確にし、役割分担を整理します。「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の目標や配慮事項を反映させましょう。

Step4 事後学習・評価 (Check/Act)「『楽しかった』を『次』につなげます」

- ・ 振り返り・事後学習
写真やビデオを見ながら活動を振り返ったり、手紙や作品交換を行ったりして、学びや成果を実感できるようにします。
- ・ 次年度への引継ぎ
成果と課題を整理し、次回の計画に生かします。
保護者や地域への発信(学校通信等)も積極的に行いましょう。



Step2 事前学習 (Do / Pre)「期待感を高め、準備を整えます」

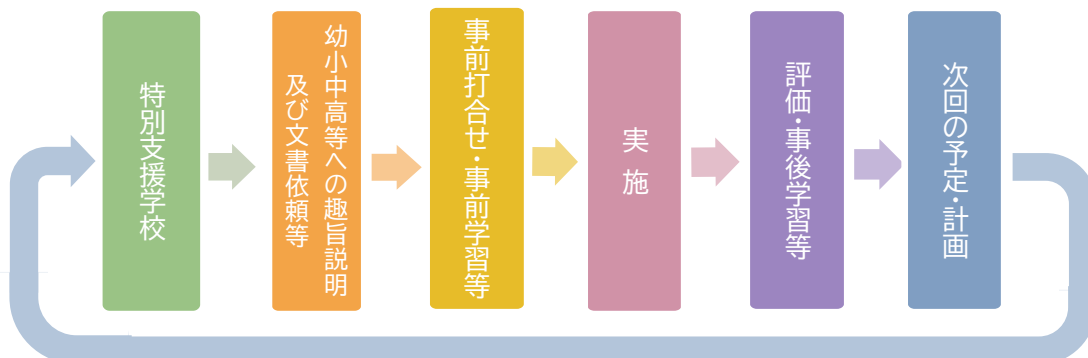
- ・ 相互理解の工夫
ビデオレターの交換や、特別支援学校教員による出前授業(理解・啓発)等を行い、交流相手への理解を深めます。
- ・ 教職員間の共通理解
個々の幼児児童生徒への具体的な支援方法や配慮事項(パニック時の対応や医療的ケア等)を、両校の教員で共有しておきます。

Step3 交流当日(Do)「幼児児童生徒の『主体性』を大切にします」

- ・ 環境設定と工夫
全ての幼児児童生徒も無理なく安全に参加できる活動内容を設定します。集団の大きさやメンバー構成にも配慮しましょう。
- ・ 教員の立ち位置
教員は介入しすぎることなく、子供同士の自然な関わりを大切にしながら見守ります。必要に応じて、つなぎ役として支援します。

学校間交流の手続きの例

学校間で交流及び共同学習を実施する際は、関係者間で十分に連絡・調整を行いましょう。



※ 新たな学校間交流の実施についてご希望の際は、群馬県教育委員会特別支援教育課へご相談ください。

交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

1. 交流及び共同学習の発展の方向性・ねらい

- ・ 小中学校と特別支援学校の教員がそれぞれの授業スキルを活かしながら、多様な児童生徒と一緒に学べる授業づくりに取り組む。
- ・ 活動は一緒でもそれぞれ子供に合ったねらいを持ちながら、主体的に授業に取り組める学習環境づくりに取り組む。

2. 上陽小学校と伊勢崎特別支援学校の6・7年度の交流及び共同学習

R6

	日程	対象児童	教科等		単元名	形態
			上陽小	伊特		
1	10/ 9(水)	上陽:特学 伊特:小3C	図画工作+国語	生活単元学習	新しい友達に自分と図工作品を紹介しよう	動画
2	10/25(金)	上陽:特学 伊特:小3C	図画工作+国語	生活単元学習	お気に入りの絵本を紹介しよう	オンライン
3	11/18(月)	上陽:特学 伊特:小3C	図画工作+国語	生活単元学習	新しい絵本を紹介しよう	対面@伊特
4	11/25(月)	上陽:特学 伊特:小3C	図画工作	図画工作	おもいでべったん	対面@上陽小
5	12/ 5(木)	上陽:特学 伊特:小3C	国語	生活単元学習	きりのこまつりリハーサルに招待しよう	オンライン
6	2/ 7(金)	上陽:特学 伊特:小3C	図画工作	生活単元学習	れっつえほうまきばーてー！	対面@上陽小



自分と作品を紹介しよう



新しい絵本を紹介しよう



おもいでべったん

R7

	日程	対象児童	教科等		単元名	場所
			上陽小 (伊特:小学部4年)	上陽小		
1	7/16(水)	4年・特(知)	総合的な学習の時間	図画工作	上陽小・伊特) みんなが笑顔になるために一緒に作って仲良くなろう	上陽小
2	10/23(木)	4年・知特	総合的な学習の時間	生活単元学習	上陽小) お互いを知ろう一緒に遊ぼう 伊特) 上陽小の友達と遊ぼう	伊特
3	11/5(水)	4年・3年 特(知情肢)	総合的な学習の時間	生活単元学習	上陽小) ユニバーサル上毛かるたプロジェクト 伊特) 上陽小の友達と遊ぼう	上陽小
4	12/3(水)	4年・3年 特(知情肢)	合科STEAM 理科・図画工作・ 総合的な学習の時間	生活単元学習	上陽小) ユニバーサル上毛かるたプロジェクト 伊特) 上陽小の友達と遊ぼう	上陽小

9/24(水)「交流相手校の様子を知ろう」において、オンライン交流を実施



すみたい町をガラスに描こう



グループごとに考案した遊び方で遊ぶ



みんなと一緒に遊ぼう

モデル校 実践例

かかわることで学びが深まる ～多様な子供同士がつくるインクルーシブな学び～

県立伊勢崎特別支援学校

- 1 対象校: 小学部4年
- 2 相手校: 玉村町立上陽小学校4年
知的特別支援学級
- 3 教育課程上の位置付け

自 校: 生活単元学習
相手校: 総合的な学習の時間

4 実施内容

- 1 事前の打合せ
担当者同士で交流のねらい、活動内容、役割分担について話し合った。当日までに、複数回連絡を取り、児童の実態、支援のポイント、細かな流れを調整した。特に、児童の配慮事項や環境設定について情報共有した。
- 2 年間の計画
1年間で全5回の計画とした。
- 3 事前指導
写真や動画で上陽小の様子を事前に理解し、当日の流れを確認した。上陽小児童は、事前に3Dかるたを制作し、クイズの準備と説明の練習をした。
- 4 当日の活動
3つのグループ(ポッチャ、すごろく、モルック)に分かれて活動した。その後、体育館で上陽小児童が伊特児童に3Dかるたを紹介し、見たり触れたりした。
- 5 事後指導
写真や動画で当日の様子を振り返り、上陽小の児童にお礼の手紙を作成した。次回の交流に向けて、課題や成果を整理した。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 活動中には、「一緒に挑戦する」「手伝う」「待つ」などの姿が見られた。
- ・ 交流後には、「またやりたい」という声が多く、関係を続けたいと思う気持ちが次の学びへの意欲につながった。



ポッチャ



すごろく



モルック



3Dかるたを使った遊びの紹介

実践例1

STT(サウンドテーブルテニス)・視覚補助具に接する交流学习

県立A特別支援学校

- 1 対象校: 中学部1・3年
- 2 相手校: 中学校1年
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 総合的な学習の時間、自立活動
相手校: 総合的な学習の時間

4 実施内容

1 事前の打合せ

電話で日程の調整を行い、後日、企画書を相手校に送付した。

2 年間の計画

年1回行っている。

3 事前指導

グループ分けした生徒たちに、紹介の原稿を読む活動などを自立活動で行った。担当教諭とともに、当日の動きや内容について打合せを行った。

4 当日の活動

本校の生徒4名を2つのグループに分け、AグループではSTT(サウンドテーブルテニス)、Bグループでは拡大読書器、点字タイプライターを紹介する活動を行った。

5 事後指導

当日の振り返りなどで、良かった点や感想を話した。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 視覚補助具やSTTを体験する中で、互いの学び方の違いに気付き、相手を理解しようとする姿が広がった。
- ・ グループ活動を通して、自分の特性や得意なことを表現したり、相手の説明を理解したりする姿が見られ、互いに学び合う態度が育った。
- ・ 普段関わることの少ない仲間との交流を通じて、相手に合わせて行動したり、思いやりを持って接したりする姿勢が生まれた。



サウンドテーブルテニスについての説明



拡大読書器についての説明

県立B特別支援学校

- 1 対象校: 幼稚部年少～年長
- 2 相手校: 保育所年少～年長
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 全領域
相手校: 全領域

4 実施内容

1 事前の打合せ

年度始めに、担当者が年間に実施する交流の日程と内容について打合せを行った。日課の中で共に活動することで、自然な関わりを増やしていくことを互いに確認した。交流日の近くになると、担当が保育所に直接出向き、当日の活動内容や準備について打合せを行った。

2 年間の計画

保育所にて年5回実施した。
6月3日・10月15日・10月29日
1月13日・2月7日(いずれも9:30～11:00)

3 事前指導

週の予定を知らせるときや、前日の活動の中で、保育所に行くことや活動内容を伝えた。可能な場合は、遊びの中などで活動内容に触れ、親しめるようにした。

4 当日の活動

- ・ 自由遊び
- ・ 朝の会(挨拶、歌など)
- ・ 設定遊び(ゲーム、リズム遊び、制作、買い物ごっこ)

5 事後指導

- ・ 振り返りの話をした。
- ・ 遊びの中で取り上げた(買い物ごっこをするなど)。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 同年齢の子供たちと活動することで、集団で過ごす心地よさを感じ、関わりが広がった。
- ・ 補聴器など相手が大切にしているものに気付いて配慮する姿が生まれ、違いを受け止める態度が育った。
- ・ 交流を継続することを通して距離が縮まり、経験の違いを越えて一緒に楽しむ関係が深まった。



設定遊び(買い物ごっこ)



お別れの挨拶

実践例3

DVD視聴やオンライン交流を通じた学校間交流

県立C特別支援学校

- 1 対象校: 中学部2・3年
- 2 相手校: 中学校2年
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 生活単元学習
相手校: 特別活動

4 実施内容

1 事前の打合せ

相手校の交流担当(ギター・マンドリン部の顧問)と電話で数回、交流を行うクラス担任も交えた対面での打合せを一回行った。

2 年間の計画

11月に相手校のギター・マンドリン部からのDVDを視聴し、お礼の手紙を送る間接交流を行うことを計画した。12月に相手校に出向いてポッチャを行う直接交流を行うことを計画した。しかし、実施直前に相手校で感染症が流行し、急遽、オンライン交流に変更した。オンライン交流では、自己紹介やインタビュー、レクリエーションを行うことを話合った。

3 事前指導

自己紹介カードを作成し、自己紹介の練習を行ったり、レクリエーションの準備物を作成したりした。

4 当日の活動

自己紹介カードを使って両校生徒が自己紹介を行った後、本校生徒が相手校生徒にインタビューを行った。また、学校紹介も行い、最後に両校生徒の代表者がお礼の言葉を伝えた。

5 事後指導

振り返りをするとともに、お礼の手紙を書いて相手校に送った。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ オンラインと対面を組み合わせた交流により、互いの学校生活や学習活動を知ることができ、距離感を縮めることができた。
- ・ 自己紹介やインタビューを通して、相手の話を聞き、自分の想いを伝えるコミュニケーション力が互いに育った。
- ・ 同年代の仲間と関わる経験が少ない生徒が安心して参加できる環境が整い、交流を楽しみながら関わる姿が見られた。



挨拶



学校紹介



レクリエーション

実践例4

アビリンピック競技 ビルクリーニング体験を通じた学校間交流

県立D高等特別支援学校

1 対象校:チャレンジビルクリーニング
在籍者3年

2 相手校:高等学校3年

3 教育課程上の位置付け

自 校:総合的な探究の時間

相手校:総合的な探究の時間

4 実施内容

- 1 事前の打合せ
相手校の担当者と電話・メールでのやり取りを計4回行った。
- 2 年間の計画
相手校の受験シーズン前、志願書等の提出に間に合う時期に実施した。

- 3 事前指導
活動の流れの確認、司会進行のスキプトの読み合わせを朝SHRの前に2回行った。

- 4 当日の活動
相手校来校時の受付・案内を行った。
ビルクリーニングの模範演技を示した後、個々に道具の扱い方・清掃の仕方について説明し、一緒に作業を行った。

- 5 事後指導
交流後、それぞれについて振り返りを行い、互いに感想を伝え合い、更に感想を記入して終了した。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 日頃の学習で培った技術を相手に伝えることで、自分の役割を意識しながら分かりやすく説明しようとする力が伸びた。
- ・ 高校生にとっては、正しい清掃方法を学びながら、相手の経験や努力を知り、多様な学び方や働き方への理解が深まった。
- ・ 共に作業を進める時間を通して、互いを励まし合いながら協働する姿が生まれた。



道具の説明



道具の扱い方の教示

高等部地域交流 校外施設見学 (地域にある施設を活用した交流)

県立E特別支援学校

※ 学校間交流未実施のため、地域交流について記載している

- 1 対象者: 高等部1~3年
- 2 交流相手: 地域にある施設の活用
 - ① ハローワークまえばし、
県庁(1学期)
 - ② 縁日ENNICHI by 1→10、
日本銀行(2学期)
- 3 教育課程上の位置付け: 産業社会と人間
- 4 実施内容



ハローワークまえばし

- 1 事前の打合せ
各施設と車椅子の使用や見学、説明の概要や時程、生徒からの質問や希望する講義の内容などについて打合せを行った。特に、車椅子の使用について確認が必要な施設には、事前見学を実施した。

- 2 年間の計画
訪問教育生が参加できる日時、場所に配慮しつつ、そのときの生徒のキャリア教育段階や心身の状況に適した見学場所を検討した。

- 3 事前指導
生徒自身が共同で見学場所を調べたり、自分の関心や進路に関わりがあることをインタビューできるように準備したりした。また、Googleスライドを用いて自分たちでしおりを共同作成することにより、見学への動機付けをより深められるようにした。



縁日ENNICHI by 1→10 アクエル前橋

- 4 当日の活動
ハローワークまえばしでは、施設や掲示物を見学したり、パソコンに触れたりすることで、どのように情報を得て、相談することができるかを体験できた。また、疑問に思ったことをその場で質問するなど、積極性が見られた。縁日ENNICHIでは、訪問教育生と合流し、事前に絵付けしていたお面をデジタル映像に映して動かしたり、八木節を踊る自分のアバターを見たりして、全員で楽しむことができた。

- 5 事後指導
生徒は、お世話になった方に自分の言葉でお礼状を書き、振り返りを行うことができた。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 公共施設での見学や体験を通して、働く場や社会の仕組みに触れながら、自分の将来を考える手がかりを得た。
- ・ 訪問教育生と通学生と一緒に活動することで、多様な背景を持つ仲間と協力する姿勢が育ち、互いの存在をより身近に感じる機会となった。
- ・ 施設の方とのやり取りを通して、地域の人と関わる経験が広がり、社会とのつながりを実感することができた。

県立F特別支援学校

- 1 対象校: 小学部1~6年
- 2 相手校: 小学校4年
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 生活単元学習
相手校: 総合的な学習の時間



相手校に自己紹介

4 実施内容

1 事前の打合せ

年度始めに、本校にて担当職員で互いのねらいや今年度の大まかな活動の流れの確認を行った。1学期は本校、2学期は相手校を会場とし、交流日1か月前に対面の打合せ、その後は電話やメールで打合せを行った。対面の打合せでは、本校児童の実態(特性や好きな活動等)や活動計画の確認、電話やメールでは、活動内容の調整や共通理解を行った。活動内容においては、本校の実態を考慮し、事前に計画書を作成して共通理解を図ったり、配慮事項を伝えたりした。



魚釣りゲームで一緒に遊ぶ

2 年間の計画

1学期は本校会場で直接交流を1回、2学期は相手校会場で直接交流を1回行った。

3 事前指導

自己紹介カードを交換し、昨年度の写真を交えながら、活動内容等を確認した。活動内容については、実態に合ったものを計画し、各学校で練習を行った。また、本校小学部主事が相手校へ行き、児童の実態や関わり方の授業を行った。

4 当日の活動

1学期は、本校児童がクラス単位または学習グループ単位に分かれ、自己紹介や本校が用意したそれぞれのグループの実態に合った活動(椅子取りゲーム、魚釣り、手遊び、自由遊び等)を行った。

2学期は、1学期と同じグループに分かれ、相手校が用意した活動(お店屋さん、ボウリング、椅子取りゲーム、もぐらたたき、ダンス等)を行った。

5 事後指導

当日の写真を見たり、お礼状を交換したりした。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 互いの実態に合わせて活動内容を工夫したことで、互いに無理なく関われる環境が整い、安心してコミュニケーションを取る姿が見られた。
- ・ 自己紹介や簡単な遊びを通して、相手への興味や親しみが高まり、自分から関わろうとする姿勢につながった。
- ・ 背景の違う仲間と協働する経験を重ねることで、相手の立場に寄り添って考えられるようになった。

県立G高等特別支援学校

- 1 対象校:全校生徒
- 2 相手校:韓国の支援学校1~3年
- 3 教育課程上の位置付け

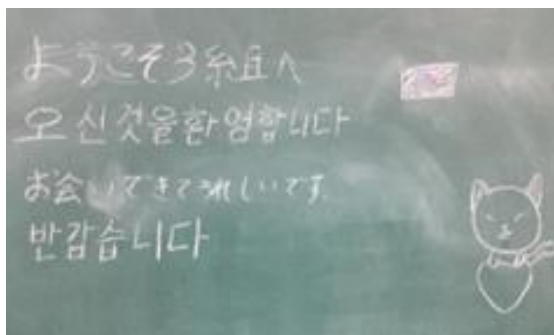
自校:総合的な探究の時間
相手校:創造的体験活動

4 実施内容

- 1 事前の打合せ
メールでのやり取りを行い、オンラインのための送受信テストを実施した。
- 2 年間の計画
オンライン交流では、手紙やメールのやり取りをした。昨年度は、相手校の代表生徒が来校したが、今年度は9月に仁川広域市の特別支援学校各校から訪問団が来校した。
- 3 事前指導
生徒には、韓国語での簡単な挨拶や自己紹介を考えるなどの事前学習を行った。
- 4 当日の活動
オンライン交流では、各学校の紹介、自己紹介、クイズ大会などを行った。
訪問団来校では、歓迎、全体会、校内見学、昼食交流、記念撮影、見送りをを行った。
- 5 事後指導
韓国の学校からのお土産を披露し、配布した。各クラスにて感想を発表した。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ オンラインや来校による国際交流を通して、言語や文化の違いを自然に受け止めながら興味を持って関わる姿が見られた。
- ・ 韓国語での挨拶や自己紹介を準備する過程で、異文化理解に向けた深い学びが生まれた。
- ・ 互いの学校紹介や校内見学を通じて、自分たちの学校生活を見つめ直す視点が育ち、相互に理解を深める経験となった。



メッセージで歓迎



オンライン交流



訪問団来校時の全体会



教室での昼食交流

県立H特別支援学校

- 1 対象校: 中学部1～3年
- 2 相手校: 中学校1年
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 総合的な学習の時間
特別活動、自立活動
保健体育

相手校: 総合的な学習の時間



全員で写真撮影

4 実施内容

- 1 事前の打合せ
電話3回(各5分程度)、メール10回程度、対面打合せ2回(相手校で2回、各1時間程度)、前日準備
- 2 年間の計画
(1)相手校にて中学部主事による事前学習(9月9日)、(2)指導、(3)相手校にて交流学习(9月19日)、(4)事後指導
- 3 事前指導
中学部主事が相手校へ出向き、学校の特色、障害のとらえ方の説明や車椅子、教材等の体験会等の事前指導を行った。本校は、保健体育等の授業でボッチャを取り入れている。事前指導では、当日と同じパワーポイントを活用しながら、チームに分かれてボッチャに取り組み、ルールや当日の交流学习の流れを確認した。
- 4 当日の活動
体育館で14コートに分かれ、全自動音声ガイダンス付スライド(パウボ)により、約50分間のボッチャ交流を行った。交流後、全員で写真を撮り、中学校の生徒による見送りを受けた。
- 5 事後指導
当日の写真や動画を見ることで、交流学习を振り返り、お礼の手紙を書いた。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ ボッチャのルールを共有しながら協力して進める活動を通して、役割分担や自然な声かけが生まれ、仲間意識が高まった。
- ・ 車椅子体験や教材を使った事前学習により、相手の個性への理解が深まり、安心して関わられる環境が整ったことで、双方のコミュニケーションが活性化した。
- ・ 同じ目標に向かって、喜びや悔しさを分かち合う中で、違いを超えて関わり合う姿勢が育まれ、共生社会につながる学びとなった。

県立I高等特別支援学校

- 1 対象校: 全校生徒
- 2 相手校: 高等学校
吹奏楽部員1・2年



全員で記念撮影

3 教育課程上の位置付け

自校: 特別活動(生徒会活動)
相手校: 部活動

4 実施内容

1 事前の打合せ

年度始めに顧問の教員に電話で開催の可否や日程、担当者等を確認した。2学期始めからはメールにて、当日の流れや生徒の実態に関する留意事項、バスや楽器運搬用トラックの手配などを3カ月にわたり、計26通のやり取りを行った。当日の朝には、相手校の代表生徒と流れや留意事項の再確認を行った。

2 年間の計画

年1回実施しており、30年以上にわたりほとんど毎年行っている。

3 事前指導

各学習集団で生徒の実態に合わせ、昨年度の交流の写真や動画を見たり、楽器の名前や音を確認したり、事前に送付された演奏曲を聴いたりした。準ずる教育課程では、午後の交流で相手校生徒に向けて行うクイズ大会の問題作成やリハーサルなどの準備活動も行った。

4 当日の活動

進行は、本校生徒会本部役員が主導で行った。午前には、相手校の吹奏楽の演奏鑑賞や楽器紹介など音楽的な活動を行った。その後、昼食交流を挟み、午後は各学習集団で交流活動を企画し、生徒の実態に合わせてクイズ大会やボッチャ、ミニ演奏会などを開催した。クイズ大会後には、総合実習で作成したメモ帳を贈呈した。なお、訪問教育の教育課程はZoomを活用し、オンラインで交流を行った。

5 事後指導

交流時の動画や写真を見ながらメッセージボードを作成し、相手校と交換した。



会話を楽しむ



メモ帳の贈呈

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 音楽鑑賞や演奏活動を共有する中で、感動や喜びを共に味わい、表現する楽しさとコミュニケーションの幅が広がった。
- ・ クイズやボッチャなど、生徒の実態に合わせた交流に参加する中で、互いの得意なことを認め合う関係が築かれた。
- ・ オンライン参加の仲間も含め、誰もが参加できる形で交流が設計されたことで、多様な仲間と共に活動する経験が広がった。

県立J特別支援学校

- 1 対象校:小学部1~6年
- 2 相手校:小学校3年
- 3 教育課程上の位置付け

自 校:生活単元学習
相手校:総合的な学習の時間



ハンドベルでの合奏

4 実施内容

- 1 事前の打合せ
夏季休業中に対面で、実際の活動場所を確認しながら行った。また、適宜電話等で連絡を取り、活動日前日には感染状況について電話で確認を行った。

- 2 年間の計画
年2回の予定で計画し、今年度は2学期に2回(11月、12月)とも本校で実施した。



紙ひこうき大会

- 3 事前指導
一緒に活動する友達の顔と名前のカードや前年度の活動の写真を見て、大まかな活動の流れを確認した。また、自己紹介(名前、好きなもの等)の練習をした。

- 4 当日の活動
1回目の活動では、各クラスで自己紹介やレクリエーションを行った後に、低学年グループ(1~3年)はボールを使った運動、高学年グループ(4~6年)はハンドベルを使った合奏を行った。2回目の活動では、相手校が主になり、「〇〇小クイズ」やレクリエーション(紙ひこうき大会やじゃんけん列車、だるまさんがころんだ等)をした。

- 5 事後指導
当日の活動写真を基に、振り返りを行った。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 自己紹介や共同活動を通して、初めて会う仲間とも安心して取り組める雰囲気築かれた。
- ・ 運動遊びやハンドベル合奏では、相手を支えたり教え合ったりする姿が見られ、互いの良さを生かし合う経験になった。
- ・ 相手校が準備したクイズやレクリエーションでは、子供たちが主体的に活動を進める姿が見られ、互いに協力し合い楽しむ関係が育った。

実践例11

児童が考えたゲームを通しての学校間交流

県立K特別支援学校

- 1 対象校:小学部1~6年
- 2 相手校:小学校6年
- 3 教育課程上の位置付け

自校:特別活動
相手校:特別活動

4 実施内容

1 事前の打合せ

相手校の交流担当と電話などで事前の打合せを行った。日時や交流方法、事前事後学習についての確認を行った。

2 年間の計画

相手校児童に向けての事前授業後に、互いにプロフィールを交換し、相手校児童はプロフィールや事前授業を基に、交流で使用するおもちゃを作成した。11月19日に交流を行った(感染症拡大のため、急遽オンラインで行った)。

3 事前指導

10月初旬、本校教諭が相手校を訪問し、事前授業を行った。動画による本校児童の紹介や肢体不自由のある児童への関わり方や配慮事項などを伝えた。本校では、交換したプロフィールを基に、当日の見通しを持ったり、聞いてみたいことを考えたりした。

4 当日の活動

6つのグループに分かれ、互いが用意したゲームで遊ぶ予定だったが、前々日にオンライン交流に決まったため、相手校からはおもちゃの紹介、本校からは自己紹介や授業で行っていることの発表などをした。

5 事後指導

後日、相手校児童が作ってくれたおもちゃで遊んだ。互いに感想を書いて交換した。

5 共に学び、共に育つ力

- ・自分たちで作った遊びを紹介する中で、相手に楽しんでもらうための工夫を意識できるようになった。
- ・交流に向けて相手のプロフィールを読み取り、相手に寄り添った関わりを考える中で、他者への配慮が育まれた。
- ・オンライン交流への変更にも柔軟に対応し、互いに協力しながら発表や紹介を行うことで、主体性や表現力が高まった。



各フロアに分かれてオンライン交流



相手校児童が作ったおもちゃで遊ぶ

県立L特別支援学校

- 1 対象校: 中学部1～3年
- 2 相手校: 中学校2年
- 3 教育課程上の位置付け

自 校: 総合的な学習の時間
相手校: 総合的な学習の時間

4 実施内容

1 事前の打合せ

相手校と電話やメールで連絡を取り、日時や内容、流れなどを確認した。

第1回の交流は、本校が内容を決めて行い、第2回の交流は、第1回の交流を踏まえ、相手校の生徒が中心となって内容を考えるなどの打合せをした。

2 年間の計画

第1回交流を6月頃、第2回交流を11月～12月に実施する計画とした。

3 事前指導

<第1回> 見通しが持てるように日時や活動内容、昨年度の様子などを学部全体で確認してから、各クラスでどのようなことを行うか話し合った。

<第2回> 各クラスで日時や第1回で交流した仲間について振り返りをした。

4 当日の活動

<第1回> 互いの学校で行っていることを発表した。本校は、総合的な学習の時間に取り組んでいる「いなほ太鼓」という太鼓の演奏を発表した。相手校は、合唱やダンスなどの発表を行った。その後、各クラスに分かれて自己紹介やゲームなどを通して相手について知ることができた。第2回で会うことを楽しみにしている生徒も多かった。

<第2回> 第1回で一緒に過ごした仲間と再会することで、早く打ち解けられた。相手校が考えてきたゲームの説明を聞き、一緒に楽しむ姿が見られた。帰りは玄関まで見送り、名残惜しそうにする生徒もいた。

5 事後指導

<第2回> 交流内容や楽しかったことを振り返り、交流相手にお礼状を書いた。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 第1回、第2回と継続的に交流する中で、再会を喜ぶ姿が見られ、仲間意識や安心感が高まり、自然な関わりにつながった。
- ・ 互いの学習活動を発表することで、頑張りを認め合い、自己肯定感や達成感を共有する機会となった。
- ・ 相手校の生徒が考えた遊びに参加することで、相手の思いを受け取りながら一緒に楽しむ姿勢が育った。



第1回 全体交流での発表



第2回 各グループでゲームに取り組む

実践例13

レクリエーションを通じた学校間交流

県立M高等特別支援学校

- 1 対象校：普通科1～3年
- 2 相手校：高等学校3年
- 3 教育課程上の位置付け

自 校：総合的な探究の時間

相手校：専門科目(福祉)

4 実施内容

1 事前の打合せ

相手校と電話や対面等で、生徒の実態やレクリエーションの内容について打合せを行った。当日の流れ、グループ編成、各校で準備する物品を確認した。また、それぞれの学校で準備を進める中で変更もあり、本校校舎内の開催場所については、頻りに電話等で情報交換を行った。

2 年間の計画

学科ごとに年度に1回実施した。
(普通科は1学期に1回、産業科は2学期に1回)

3 事前指導

他校の生徒が来校し、一緒にレクリエーションを行うことやグループ編成、交流の内容の確認をした。

4 当日の活動

各校の生徒が5グループに分かれてゲームやクイズ等のレクリエーションを行った。相手校生徒がレクリエーションの内容を考え、1教室1グループの配置とし、本校生徒のグループが教室を移動して全グループと交流した。レクリエーションの内容は、ジェスチャーゲーム、カップタワー競争、なんでもバスケット、○×クイズ、じゃんけんゲームを各グループ15分で行った。

5 事後指導

お礼や感想を書いたメッセージカード作りをした。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 生徒同士が新しい仲間と出会い、ゲームやクイズを通して協力し合う中で、表情が和らぎ積極的に関わろうとする姿勢が見られた。
- ・ 相手校が考えたレクリエーションに参加する中で、相手の説明をよく聞き、状況に合わせて動く力が育った。
- ・ 多様な個性のある仲間と一緒に活動することで、言葉遣いや伝え方、接し方を工夫する力が自然に育まれ、思いやりと理解が深まった。



じゃんけんゲーム



カップタワー競争

実践例14

同じ地域に住む同世代との交流の実践 ～「おなじ」と「ちがう」に気付くために～

県立N特別支援学校

- 1 対象校:小学部5・6年
- 2 相手校:小学校5年
- 3 教育課程上の位置付け

自校:生活単元学習
相手校:総合的な学習の時間



玉入れを楽しむ

4 実施内容

1 事前の打合せ

4月に教員間で事前打合せを行い、交流の目的や交流方法、日程等の確認をした。

2 年間の計画

5月:学校紹介ポスターを作成した。本校職員が相手校を訪問し、5年生に向けて学校紹介の講話を実施した。相手校は、学校紹介の動画を作成した。

6月:事前学習として動画の視聴や当日の流れを確認し、交流の見通しを持った。交流当日。交流後には、お礼の手紙を作成し、送付した。



キャッチボールを楽しむ

3 事前指導

特別支援学校の様子分かるよう、各学年で模造紙1枚にまとめた学校紹介を作成し、相手校にプレゼントした。相手校の児童が作成した学校紹介動画を視聴したり、当日の活動内容を確認したりして、交流への興味を高め、見通しを持てるようにした。

4 当日の活動

相手校の児童が企画したゲーム(的あて、ボウリングなど)をグループで楽しんだり、本校児童が慣れ親しんでいるダンスを一緒に踊ったりして、交流した。

5 事後指導

交流が「その日だけのイベント」で終わらず、人とのつながりを意識できる経験になるように、交流後にはお礼の手紙を送った。また、2・3学期に学校の様子を伝えるために模造紙を作成し、相手校に送った。

5 共に学び、共に育つ力

- ・身近な地域に住む同世代と活動することで、相手の存在をより近くに感じ、地域で共に生活する実感が深まった。
- ・ゲームやダンスと一緒に楽しむ中で、互いの得意なことを認め合い、相手のペースに合わせて関わる姿勢が生まれた。
- ・交流後も手紙や掲示物を通してやり取りを継続することで、つながりを続けたいという気持ちや育ち、人との関係を大切に作る姿勢が広がった。

実践例15

高等学校とのパン作り交流

県立O高等特別支援学校

- 1 対象校:産業科1年
- 2 相手校:高等学校3年
- 3 教育課程上の位置付け

自校:生活単元学習
相手校:特別の教科 道徳

4 実施内容

- 1 事前の打合せ
相手校の担当教諭と電話やメールで数回打合せを行った。
- 2 年間の計画
年間で1回実施する計画とした。
- 3 事前指導
スライドや写真を用いて、当日の流れや活動内容、食品を扱うことに対するの留意点、相手校生徒との関わり方などの事前学習を行った。また、キャリアパスポートを用いて、交流活動の個人目標を立てた。



手順について説明

- 4 当日の活動
各校の教諭の挨拶後、各グループに分かれてパン作り交流に取り組んだ。各グループでは、自己紹介を行った後に、相手校の生徒が主体となり、パンの作り方や留意点を本校の生徒に伝えた。パンを発酵している時間には、相手校の校舎内を見学した。終わりの挨拶では、本校の陶芸班で製作した陶器のマグネットを贈呈した。焼き上がったパンは、本校に持ち帰り、午後の時間に食べた。
- 5 事後指導
写真を用いての振り返りやキャリアパスポートを用いて「頑張ったこと」や「もう少しできたこと」についての振り返りを行った。



パンの成形

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 協力してパンを作る体験を通して、衛生面への配慮や作業の進め方を互いに学び合い、作業に対する責任感と主体性が高まった。
- ・ 高校生が説明役を担うことで、相手の理解に合わせて伝える力が身に付き、リーダーシップの育成にもつながった。
- ・ 作ったパンや贈り物を交換する時間が、相手への感謝や思いやりの気持ちを育てるきっかけになった。

県立P特別支援学校

- 1 対象校:小学部1～6年
- 2 相手校:小学校3年
- 3 教育課程上の位置付け

自校:生活単元学習
 図画工作、特別活動
 相手校:総合的な学習の時間
 図画工作、特別活動



合同制作(船の帆を塗る)

4 実施内容

1 事前の打合せ

年度当初に、年間を通した学校間交流の予定について、両校の交流担当職員が話し合いの上、決定した。細かな調整は、電子メールや電話などで行うとともに、共同編集ファイルを用いて互いの児童の実態や制作の進捗状況などについても共有した。

2 年間の計画

顔合わせ集会(6月上旬)→遊び交流(6月中旬)→合同制作(9月～10月)→交流運動会(10月中旬)→振り返り(10月下旬)

3 事前指導

交流担当職員が相手校に出向いて、障害理解のための出張授業を行った。また、事前に受け取った相手校児童の自己紹介カードを基に自分の好きな物を決める学習や、タブレット端末を操作して自分の好きな物や気持ちを伝える学習を設定した。

4 当日の活動

合同制作の際は、本校5クラスに合わせて相手校児童を5グループに分けて配置した。各グループでテーマを決めてパレードで発表するためのフロートを2日間かけて制作した。各々の実態に即した素材を自由に加工し、共通の目的に向けて取り組んだ。交流運動会当日は、グループ毎に歩幅を合わせながら、堂々とパレードの行進をしていた。

5 事後指導

合同制作や交流運動会の様子が分かる写真や動画を見ながら振り返りを行った。



交流運動会(船を進める)

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 合同制作を通して、それぞれの得意なことを生かしながら作業を進める中で、互いの思いを共有でき、コミュニケーション力が高まった。
- ・ 事前の出張授業や自己紹介カードを通して、相手を理解しようとする姿勢が育ち、安心して学習に参加することができた。
- ・ 運動会のパレードでは歩幅を合わせて歩く姿が見られ、一つの目的に向かって力を合わせる気持ちが育まれた。

実践例17

地域連携による「花交流」を通じた主体的・対話的学び ～高校生との協働作業(寄せ植え)を通して～

県立Q特別支援学校

- 1 対象校: 中学部1年
- 2 相手校: 高等学校3年
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 生活単元学習
相手校: 専門科目
(「課題研究」や「総合実習」等)
及び交流学习

4 実施内容

1 事前の打合せ

年度当初に年間計画を調整した。
8月に相手校にて、本校教員による
「事前学習(出前授業)」を実施し、障
害特性や具体的な支援方法(選択肢
の提示、視覚支援等)について共有
した。

2 年間の計画

10月下旬: 単元の開始、目標設定
11月上旬: 交流実施(相手校にて)
11月中旬: 振り返り、お礼状作成

3 事前指導

自校: 「キャリア・パスポート」の枠を活用した個別の目標設定、挨拶やプレゼント(学校紹介等)を渡す練習、約束の確認を行った。
相手校: 障害に関する基礎理解に加え、「苗の選び方をどう伝えるか(2択にする)」「土の量をどう伝えるか(カップや線で示す)」など、具体的なコミュニケーション方法を検討した。

4 当日の活動

場所: 相手校(用土室・中庭)
内容: 高校生とペアやグループになり、アドバイスを受けながら好みの花苗を選び、プランターへの寄せ植えを行った。作業後は、感想発表や記念撮影を行った。

5 事後指導

活動写真を見ながらワークシートで振り返りを行った。感謝の気持ちを込めて高校生へのお礼の手紙を作成し、送付した。



シャベルを使って土入れ



完成した寄せ植え

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 高校生が寄せ植えの方法を丁寧に伝えたり、視覚的な支援方法を工夫したりする中で、相手に合わせて伝える力や思いやりの心が育った。
- ・ 本校生徒は、年上の仲間に励まされながら主体的に花選びや寄せ植えに取り組み、自信とコミュニケーション意欲が高まった。
- ・ 共に一つの活動をする体験を通して、互いの存在を認め合い、協働する楽しさや達成感を共有することができた。

実践例18

年間を通じたグループ交流 (特別支援学校・学校間交流)

県立R高等特別支援学校

- 1 対象校: 普通科肢体グループ1・3年
- 2 相手校: 高等特別支援学校
普通科肢体グループ1～3年
- 3 教育課程上の位置付け

自 校: 生活単元学習
相手校: 生活単元学習

4 実施内容

1 事前の打合せ

日程調整等は電話・メールにて行った。
直接交流の日程は、前年度3学期に決定した。
具体的な内容については、オンライン(複数名)
で実施した。生徒の顔写真を見せ合いながら、
個々の特性や注意する点、体調面等について
細かくすり合わせを行った。それを踏まえ、
できることについて意見を出し合って決定した。

2 年間の計画

6月: オンライン交流①(自己紹介) 7月: 直接交流(相手校にて/ボウリングゲーム)→感想カードの交換 10月: 文化祭の案内送付 12月: オンライン交流②クリスマス会(出し物披露会) 2月: 3年生への卒業メッセージ交換

3 事前指導

学期の始めに、他の行事と同様に昨年度の
写真等を見て今年度も行うことを知らせた。

4 当日の活動

7月に相手校にて、直接交流を実施した。挨拶→事前に打ち合わせた曲でパラ
シュート遊び→各校合同2チームの対戦方式でボウリングゲーム*本校生徒は点数付
け係なども行う→記念写真→相手校に見送られながらスクールバスにて帰校した。

5 事後指導

直接交流後は、写真で活動を振り返り、感想カードを作成した。また、相手校から受
け取った感想カードは、全員に紹介して教室に掲示した。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ オンラインと対面の双方での継続的な交流により、「また会いたい」という思いが育ち、安心して関われる関係が深まった。
- ・ パラシュート遊びやボウリング等を協力して行うことで、互いの得意・不得意を自然に補い合う姿が見られた。
- ・ 実態の近い仲間と共に活動することで、自分の努力や挑戦を認め合う経験につながった。



パラシュート遊び



ボウリングゲーム(点数付け)



オンライン交流

県立S特別支援学校

- 1 対象校: 高等部1~3年
- 2 相手校: 高等学校 生徒会
図書委員会1・2年
- 3 教育課程上の位置付け

自 校: 作業学習
相手校: 特別活動(生徒会・委員会活動)

4 実施内容

① 事前の打合せ

交流1ヶ月前に担当教員が相手校を訪問し、特別支援学校や生徒の様子、生徒に関わる際のポイントについて出前授業を行った。交流前に電話で事前打合せを行い、当日の流れ等について確認した。

② 年間の計画

相手校で事前学習を行い、交流は年に1回実施した。

③ 事前指導

当日の流れをパワーポイントで確認したり、当日披露するよさこいソーランの練習を行ったりした。ペアを組んで作業を教える生徒には、相手校の生徒との関わり方や当日の活動内容、係分担についても確認を行った。

④ 当日の活動

ペアを組んで作業を教える生徒と相手校の生徒は、始めにオリエンテーションを行い、当日の日程確認や自己紹介を行った。その後、各作業班に分かれて、本校の生徒がペアとなった相手校の生徒に作業の手順を説明した。午後は、本校の生徒によるよさこいソーランや和太鼓演奏、相手校の生徒による大型紙芝居の披露を行った。

⑤ 事後指導

相手校の生徒に手紙を書いた。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 作業を教える側、教わる側として互いに役割を持ち、相手の理解に合わせて説明したり、励ましたりすることでコミュニケーション力が向上した。
- ・ 発表や共同作業を通して、互いの活動への理解が深まり、協力し合う楽しさを実感できた。
- ・ 多様な仲間と関わる経験が増え、相手の考えを尊重しながら行動する姿勢が広がった。



陶芸の作業学習を通して交流



高校の生徒による大型紙芝居披露

伝承遊び(とおりゃんせ、はないちもんめ、だるまさんがころんだ)を通じた学校間交流

県立T特別支援学校

- 1 対象校:小学部1~6年
- 2 相手校:小学校5年
- 3 教育課程上の位置付け

自 校:生活単元学習
相手校:総合的な学習の時間

4 実施内容

1 事前の打合せ

電話にて、日時と内容の確認や役割について打合せした。他2回。直接出向いたのは、計3回行った。より子供同士が関わりを持てるように、今回から交流の内容を変更したため、本校から出向いて児童の実態や必要な支援、配慮事項などを伝えた。互いのプロフィールを交換することにした。

2 年間の計画(略)

3 事前指導

いつ、誰と、どこで、何をするのかを伝えた。事前に、伝承遊びを各グループで実施した。

4 当日の活動

全体会で挨拶をし合った。伝承遊びは、両校が3グループに分かれて行った。「とおりゃんせ」では、両校が一列につながり、一緒に遊んだ。「はないちもんめ」は、学校対抗でスタートし、途中じゃんけんでどちらかが負けると、自分のチームを離れて相手チームに抵抗なく加わられた。「だるまさんがころんだ」では、相手校の児童と手をつないで行った。普段自由に行動することの多い児童も、当日は相手校の児童と息を合わせて楽しそうに遊べた。別れ際に、相手校の児童が作った折り紙をプレゼントしてもらった。

5 事後指導

電話にて、教員間で交流を振り返った。今回の交流では、関わりを多く持つことができたことを確認した。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 一緒に手をつないだり、同じ列に並んだり、身体を寄せ合って遊ぶ活動を通して、互いに安心して関わり合う姿が見られた。
- ・ 相手の動きや気持ちを感じ取りながら遊ぶことで、相手に配慮した声かけや助け合いの姿勢が生まれた。
- ・ 経験の違う仲間とも抵抗なく関わり、互いを受け入れて一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができた。



とおりゃんせ



はないちもんめ



だるまさんがころんだ

県立U特別支援学校

- 1 対象校: 中学部1~3年
- 2 相手校: 高等学校3年
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 生活単元学習
相手校: 課題研究

4 実施内容



花壇へ花の移植

- 1 事前の打合せ
担当者が電話やメールで日程の調整等を行った。
- 2 年間の計画
5月にさつまいもの苗植え、10月にさつまいもの収穫、12月に富岡製糸場への植栽を一緒に行うことを計画した。
- 3 事前指導
生徒の実態に応じて、昨年度の活動の様子を画像で見たり、カレンダーを利用して交流日を確認したりした。朝の運動の校外歩行で、実際に富岡製糸場まで歩く練習を行った。
- 4 当日の活動
始めに、互いに挨拶をした。高等学校の生徒が、植え方について説明を行い、2~3人のグループに分かれて、富岡製糸場の花壇にビオラを移植した。植え終わった後に、高校生と一緒に花に水やりを行った。
- 5 事後指導
クラスごとに、当日の活動の写真を見るなどして、振り返りを行った。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 共同で花を植える活動を通して、同年代の仲間と声を掛け合いながら協力して作業に取り組む姿が見られた。
- ・ 富岡製糸場という実際の地域資源を活用して共同作業を行うことで、自分たちの活動が地域とつながる実感を持つことができた。
- ・ 多様な仲間が協力して作業する経験を通じて、互いのペースを尊重しながら手助けしたり声をかけたりする思いやりの心が育まれた。

県立V特別支援学校

- 1 対象校: 小学部1~6年
- 2 相手校: 小学校4年
- 3 教育課程上の位置付け

自 校: 生活単元学習、特別活動
相手校: 総合的な学習の時間

4 実施内容

① 事前の打合せ

担当が相手校に一度伺い、大まかな交流内容について話し合った。その後は、交流前日まで電話やメールで複数回連絡を取り、詳細な交流内容や児童の実態などを確認した。

② 年間の計画

オンライン交流1回、相手校での直接交流1回の計2回実施した。

③ 事前指導

写真やイラスト、動画などを活用したパワーポイントで相手校の紹介をすることで、相手校のイメージを持って活動に参加することができた。自己紹介カードを書き、相手校の児童と交換した。どのような児童がいるのか知ることができ、見通しを持って活動に参加することができた。

④ 当日の活動

オンライン交流では、相手校の児童が考えたクイズに答えたり、互いの学校生活のことについて質問をし合ったりした。直接交流では、本校の児童が相手校に伺い、小グループに分かれて自己紹介をしたり、相手校の学校探検や相手校の児童が考えた遊びブースでの活動を行ったりした。

⑤ 事後指導

交流時の写真や動画を見ながら振り返りを行い、次回の活動へ意欲を高めることができた。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ オンラインと対面を組み合わせることで、多様な形態でのつながり方を体験し、コミュニケーション手段の幅が広がった。
- ・ 相手校が考えたクイズや学校探検に参加する中で、新しい体験や発見を共有し、互いの学校生活への理解が深まった。
- ・ 多様な実態の仲間が安全に参加できるように工夫された環境の中で、共に支え合って活動する姿が見られた。



オンライン交流



学校探検

県立W特別支援学校

- 1 対象校: 小学部1～4年
- 2 相手校: 幼稚園年少～年長
- 3 教育課程上の位置付け

自校: 特別活動
相手校: 全領域

4 実施内容



砂場で遊ぶ

- 1 事前の打合せ
電話での打合せを各月に行った。
日程の調整と、自由遊びの方法、当日の進め方について打合せをした。
- 2 年間の計画
5～12月の間で、3～5回の交流を計画した。
- 3 事前指導
行き先の写真を提示したり、カレンダーで日程を示したりした。昨年度の様子が分かる写真を用いて、活動の様子を思い出したりイメージしたりできるようにした。
- 4 当日の活動
幼稚園の広い園庭でのびのびと、ブランコや砂場、すべり台、三輪車など様々な遊具で自由遊びを楽しんだ。「誕生日いつ？」など自然に声をかけたり、ヘリコプターや救急車を一緒に見て話したり、同じ遊具や砂場で遊んだりした。回数を重ねるごとに自然と一緒に遊べるようになり、子供たちにとって楽しい時間となった。
- 5 事後指導
活動の写真を見て、活動内容を振り返り、気に入った写真や楽しかった活動の写真を選んでワークシートにまとめた。「お山作ったね」「お店屋さんしたね」など、楽しかったことを言葉にする様子が見られた。また、カレンダーに予定を示しておくこと、次を楽しみにする様子も見られた。

5 共に学び、共に育つ力

- ・ 広い園庭での自由遊びを繰り返す中で、緊張が少しずつ和らぎ、自然と一緒に遊べる関係性が育った。
- ・ 一緒に砂場や遊具で遊び、会話を交わすことで、自分のペースで関われる場が保障され、多様な仲間と共に過ごす楽しさを実感した。
- ・ 異年齢、異校種の仲間と関わる経験を重ねることで、人とのつながりを広げ、思いやりや協力する心が育まれた。



共生社会の実現に向けて

群馬県では、第3期群馬県特別支援教育推進計画に基づき、障害のあるなしにかかわらず誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現を目指しています。その取組の一つとして、交流及び共同学習を積極的に推進しています。

基本目標

インクルーシブ教育システムの構築を目指し、障害のある幼児児童生徒に対し、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導・支援を提供できる多様な学びの場の充実に努めます。

また、障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒が共に学ぶことを積極的に推進し、一人一人の多様性を尊重し、その可能性を最大限に伸ばす教育を実践します。

取組

互いに豊かな心を育み、多様性への理解を図る交流及び共同学習の推進。



交流及び共同学習を行う教育的意義

交流及び共同学習は、障害のあるなしにかかわらず全ての幼児児童生徒にとって、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ重要な機会となります。

このことは、国際条約や国内法、学習指導要領においても明確に位置付けられています。

障害者の権利に関する条約

第二十四条 教育

2(b) 障害者が、他の者との平等を基礎として、自己の生活する地域社会において、障害者を包容し、質が高く、かつ、無償の初等教育を享受することができること及び中等教育を享受することができること。

障害者基本法(平成23年8月改正)

第16条

3項 国及び地方公共団体は、障害者である児童及び生徒と障害者でない児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによつて、その相互理解を促進しなければならない。

小学校学習指導要領(平成29年3月告示)

第1章 総則 第5 学校運営上の留意事項

2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

イ 他の小学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。

※ 中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月)等にも同様に示されています。

このような交流及び共同学習は、学校卒業後においても、

- ・ 障害のある幼児児童生徒にとっては、様々な人々と共に助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながります。
- ・ 障害のない幼児児童生徒にとっては、障害のある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動や、人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながります。

👉 交流及び共同学習の主な形態

交流及び共同学習には、主に次の4つの形態があります。

① 学校間交流

幼稚園、小学校、中学校、高等学校等と特別支援学校が、行事等を通じて相互に相手校を訪れ、学校全体、学年、学級等の単位で行う交流及び共同学習です。

② 居住地校交流

特別支援学校に在籍する幼児児童生徒が、居住地の小・中学校等において、在籍する幼児児童生徒と一緒に活動し、触れ合う交流及び共同学習です。

③ 地域交流

特別支援学校または小・中学校に在籍している幼児児童生徒が、地域の人々と行事等を通じて行う交流及び共同学習です。

④ 学級間交流

校内における通常の学級の幼児児童生徒と特別支援学級の幼児児童生徒が行う交流及び共同学習です。

👉 学校間交流の効果

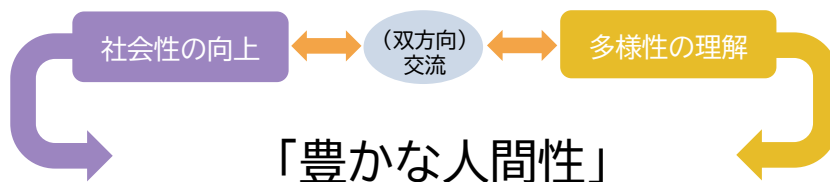
上記の形態の中でも、学校間交流については、学校種を超えた交流が「共生社会の実現」に資する重要な教育活動であると考えています。

学校間交流には、主に次の5つの効果が期待されます。

1. 社会性・人間性の育成
2. 相互理解・多様性の尊重の促進
3. 卒業後の社会参加への力の育成
4. 学校全体の教育活動の活性化
5. 子供の視野を広げ、幅広い経験を提供

【特別支援学校の幼児児童生徒】

【幼小中高等の幼児児童生徒】



学校間交流は、双方の幼児児童生徒が学び合い、共に育つ関係をつくります。

